



調べ学習の進め方

学校生活の中で、教科の学習に限らずLHR活動や自由研究などさまざまな場面で調べ学習が行われます。

調べ学習というのは、テーマに沿って情報を収集し、それをよく読みこんだうえで、自分の考えと結びつけて発展させ、読み手にわかりやすいようにまとめて作品にする(または発表する)ことです。次の手順を参考に、取り組んでみましょう。

1. テーマを明確にする

○知りたいことをテーマに選ぶ

授業などで大きなテーマが出された場合でも、できるだけ自分の興味や関心のある小テーマを選んだり、しぼり込んだりすることが大切です。日常生活の中で疑問を持ったり興味がわいたりしたことを、具体的に取り上げるといいでしょう。

○自分にとって適切なテーマか

テーマを選ぶ際、そのテーマに関してある程度の予備知識は必要です。まったく知識がないことをやみくもに調べても面白くありません。調べるための資料はあるか、調べる手立てはある程度予想できるかなども考えて決めるといいでしょう。

○あまり大きなテーマにしない

テーマの中に含まれるより小さなテーマに絞り込んでいくことが大切です。絞り込んでいくとより専門的な詳しい調査ができて自分らしさのある調べ学習になります。

2. いろいろなメディアを使って調べる

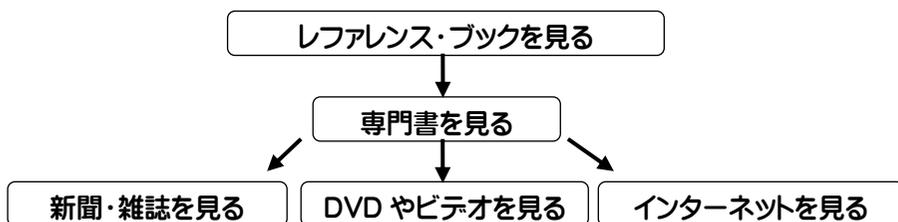
○メディアを使い分ける

本や雑誌、新聞、インターネットなど、テーマや目的によってどのメディアを使うのが最も適した調べ方なのか考えてみましょう。

新しい情報がほしいとき	⇒新聞・雑誌・インターネット
歴史的なことを知りたいとき	⇒歴史書・歴史事典・年表
図や写真がほしいとき	⇒図鑑・写真集・インターネット
統計やデータがほしいとき	⇒白書などの統計資料・インターネット

○調べる手順を考える

何かを調べるときに最も一般的なのは、百科事典や辞典など調べるための本(レファレンス・ブック)を使う方法です。まずレファレンス・ブックで、テーマについての基本的な知識を得るようにします。そのうえで、詳しく書かれた専門書を見たり、インターネットで調べたりするといいでしょう。



○いくつかのメディアを組み合わせて調べる

インターネットだけで調べて終わりにするのではなく、本や新聞、雑誌など調べる手段をかえて確認することも大切です。インターネットで調べたことを本で確認するというように、いくつかメディアを組み合わせることによって、偏りのない情報を得ることができます。

3. レファレンス・ブックを使う

○レファレンス・ブックとは

百科事典、辞典、図鑑など調べるための本をレファレンス・ブック(または参考図書)といいます。それぞれの特徴を知り、使い分けるようにしましょう。

ことばを調べる	⇒ 国語辞典、漢和辞典、外国語辞典など
人物を調べる	⇒ 人名事典、人物事典、百科事典など
出来事を調べる	⇒ 時事用語辞典、年鑑など
統計・データを調べる	⇒ 白書、年鑑など
地理・地名を調べる	⇒ 地図、地名辞典、ガイドブックなど
動物・植物を調べる	⇒ 図鑑、百科事典など

○百科事典を使う

百科事典には、基本的なことが簡潔に書かれているので、調べたいことの全体像を知るのに便利です。そこからテーマを絞り込んだり、テーマを発展させたりできます。本校の図書館には次のような百科事典があります。

「平凡社世界大百科事典」「総合百科事典ポプラディア」 など。

4. 吉祥の図書館をうまく利用する

○まず、吉祥の図書館へ行ってみる

吉祥で行われている学習内容に合わせて、図書館には必要な本や雑誌、新聞、視聴覚資料などが揃えてあります。探している資料が見つからない場合は、図書館の先生に相談してみましょう。

○図書館の使い方を知る

図書館のしくみや使い方を知っていると、調べ学習を効率よく進めることができます。「図書館利用ガイド」P.11 をよく読んでおきましょう。

○調べ方や資料について質問してみる

図書館の先生は常に必要な資料を紹介したり、調べ方についてアドバイスしたりしています。これは、「レファレンス・サービス」といって、図書館の大事な機能の一つです。遠慮しないで、わからないことはどんどん質問してみましょう。

5. 本の丸写しはしない

○情報を集めただけでは「学習」ではない

レポートを作成するときに、本を丸写しただけ、インターネットの情報をコピーして貼り付けただけ、で終わりという人がいます。これでは、情報を集める作業をただで学習したことにはなりません。

○自分の頭で考えることが大事

テーマに関する情報を集めたら、それをよく読みこんで自分の頭でいろいろ考えることが大事です。いくつかの資料を比較したり、「どうしてそうなるのか」その理由や背景などについて考えてみてください。

○新たな疑問や発見を大切に

考えていくなかで、わからないことが出てきたらそのままにしないで、さらに調べて疑問を一つずつ解決していきましょう。そうすることによって、調べ学習が発展し、深みのあるものになります。

6. 著作権を守ろう

○「引用」するときのルール

人の文章などを自分の文章の中で使うことを、「引用」といいます。「引用」するには条件があり、これを守らないと「著作権」を侵害することになるので気をつけましょう。

- ・研究などのための利用で、正当な範囲内であること。
- ・自分の文章が「主」で、引用部分は最小限であること。
- ・引用部分がどれか、カギカッコなどをつけて明確にすること。
- ・出所を明示すること。(著作者名、著作物のタイトル、発行年)

○「参考文献一覧」をつくる

調べる際に使った資料は、すべて参考文献として記録しておきます。本の場合は「著者名、書名、引用ページ、出版社、発行年」など。インターネットの場合はWebページの「制作者、ページのタイトル、URL(アドレス)、閲覧日」などを記載します。

7. 調べたことを発表する

○読み手に伝える工夫を

集めた資料をただ書き写すのではなく、情報を整理し、それをどういう順序でまとめれば、よりよく読み手に伝わるかを工夫しましょう。文字は読みやすい字で丁寧に書くこと、グラフ、図、写真など効果的に使うことも大事です。

○発見したこと、学んだことをまとめる

最後に、結論を整理してまとめます。これが一番肝心なところです。調べながら考えたこと、発見したこと、調べ終えての感想など、自分ことばで書いておきましょう。

参考文献:『調べ学習を進めるための7つのポイント』
(笠原良郎・紺野順子著 ポプラ社 2003年)

